

# 職リハレポート No.19

2019年4月19日

## 今号の内容

### 研究成果活用レポート

職リハレポートでは、障害者職業総合センター研究部門における研究成果の活用事例を随時ご紹介しています。

今号では、京都の就労移行支援事業所の「アステップむろまち」におけるMWS（ワークサンプル幕張版）の活用について、ご紹介します。京都の就労移行支援事業所としては初めてMWSを導入されたとのこと。また、MWSを活用することの効果もあって京都で有数の就職実績をあげています。

アステップむろまちは、このビルの5階にあり、同じ運営法人のまるいクリニックもはいています。



※ 研究企画部企画調整室では、研究成果の活用事例について、随時、募集しておりますので、「〇〇の研究が〇〇に役立った」「〇〇の研究成果を〇〇に利用している」「〇〇をこのように活用している」等々、お気軽にお寄せください。

# 研究成果物の活用事例のご紹介

## －アステップむろまちにおける MWS（ワークサンプル幕張版）の活用事例－

今回訪問させていただいたのは、京都市にある就労移行支援事業所のアステップむろまちです。京都市営地下鉄「烏丸御池」徒歩3分、京都市営地下鉄「四条」・阪急「烏丸」徒歩5分という利用しやすい立地条件にあります。母体となる法人は医療法人博友会で、精神科・診療内科のまるいクリニックを運営しており、ここではデイケアナイトケア、訪問看護、相談支援事業所も実施しています。医療法人が母体の就労移行支援事業所であり、開所当時から MWS（ワークサンプル幕張版）を導入しているとのことであり、その経緯や導入した効果等についてお話を伺いたいと思い訪問させていただきました。今回は管理者の大石さん、就労支援員の嶋村さんにお話をお聞かせいただきました。因みにアステップむろまちのスタッフは全員、精神保健福祉士であり、訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）も在籍しています。

○アステップむろまちのホームページを見ると、開所当時から MWS を導入されていますが、その経緯や理由を教えてください。

大石所長：私は元々このビルの中にあるクリニックのデイケアの所属だったんですが、院長から就労移行支援事業所の立ち上げを指示され、就労移行支援事業所についていろいろ調べているうちに MWS を知ったことがきっかけとなりました。私は以前兵庫県の西宮で働いていたことがあって、その時に就労移行支援事業所として実績をあげており、アセスメントできて、結果もわかりやすく説明できる。」と話を聞き、是非、新しく立ち上げる就労移行支援事業所にも導入したいと考えたのです。早速院長に相談し、開所時には配備することができました。導入時には京都の障害者職業センターに研修をしてもらっています。



嶋村さん(左)と大石所長(右)

○実際にはどのように使用されているのでしょうか。

大石所長：当センターでは、利用開始前に利用体験を6回くらい実施させてもらっています。その中で必ず MWS の簡易版を実施しています。利用開始のための面談だけですと、利用希望者の特性等について十分把握することはできません。ご本人からは「パワハラで仕事を辞めることになりました。」と説明があったものの、MWS を実施してみると「チョット」と職員を呼びつけたり、1つでも不正解が出ると怒り出したりとか、会社というよりはご自身に課題もあったのではと思わせる言動が現れ、事前に一定レベルのアセスメントをすることができます。このような状況が利用登録後にわかるということでは、プログラムの運営上支障をきたすことも考えられます。アセスメントという意味では体験の時にわかるというのがすごく大事なことなんですね。

○訓練版についてはどのように使っているのでしょうか。

嶋村さん：スタッフとの面談の中で、「次にこういう実習先とか、こういう企業での就労を目指すのであればこういう作業をやってみましょう。」というようにご本人と話し合いながら作業の選択をしたりしています。

大石所長：自分がMWSの研修を受けた時に、ご本人が興味のある作業をまずはやってみて楽しむ、楽しむということじゃないかもしれませんが、いやにならないようにするということが重要だと思いました。こうしたことから、興味のある作業を実施することが多くなっています。ただ、それだけでは結構ばらばらやって（多分野になり）、あまり積み重ならないことも出てきたりしてますけど。

一方で、京都ならではののちかも知れませんが、結構伝統工芸に関心があり、伝統工芸品をつくりたい、ものづくりをしたいという方もいて、こういう方には、ナプキン折りを実施したりしています。実際には、思ったよりもできる方もいれば、ものづくりをやりたいのにナプキン折りをするのはモチベーションが低くなる、という方もいます。ただ、支援者としては、伝統工芸やものづくりなどの分野でこれから事業所に実習等をお願いするには、事前に手先の器用を含め適性を事前に把握しておく必要があります、ナプキン折りは意外と使えるなどわかってきたところなんです。

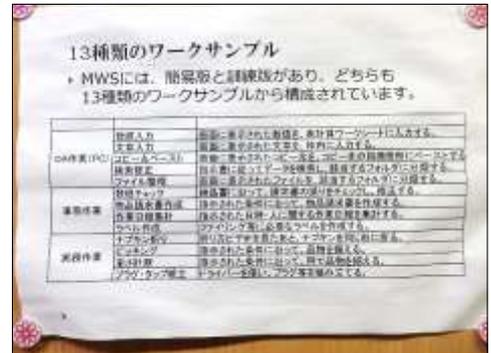
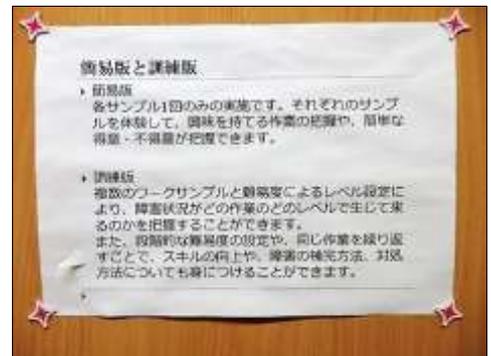
当センターの利用者は、発達障害の方が7割くらい、統合失調症の方が3割くらいという構成になっています。簡易版については全員やっているのですが、訓練版については、どうしてもパソコンが使えないという方もいるので、やはりご本人の興味関心を踏まえ、スタッフと相談し合意された作業を中心に実施していくことになります。

嶋村さん：利用者の中でもMWSをやっていることで達成感を持ったりする人もいます。

大石所長：MWSを他の作業よりもワンランク高い感じで受け止められているようです。また、MWSのメリットと感じているのは、結果をわかりやすく示されるということだけではなく、作業に取り組むなかでスタッフのやりとり立ち振る舞い、ミスしたときの対応、指示を素直に受け取ることができるかどうか、疲れの出方はどうか、など実際の職場ではどういことが起こりえるかということがわかることです。

○会社の中での上司と部下のやりとりのシミュレーションになるということですね。

嶋村さん：作業の体験というところでもそうなのかもしれませんが、スタッフに報告しに行ったりとか、相談しに行ったり、作業指示や質問をした時のメモとりなどで悩んだり苦しんだりしている利用者が結構いて、そこであの時はこうだった



▲MWS実務作業 ピッキング

とか振り返りをしたりしており、想定される職場でのコミュニケーションを疑似体験し、課題の発見と対応方法の習得につながっているようにも思います。

**大石所長**：仕事の出来不出来も大事ですが、職場のコミュニケーションについてアセスメント、課題改善に取り組めることは大きな意味があると思います。

### ○振り返りはどのように行っているのですか。

**大石所長**：MWS 結果記録表というのをつくって利用者とバインダーで綴っています。ここには、どんな作業（レベルも）をどのくらいの時間実施したか、どんなミスがどのくらい発生したか、またはミスななかったか、感想と次回気をつけたいところ、など記載する欄があり、日々利用者はこれらの記載をします。ひとりひとりのバインダーがあり、そこに記録表を綴っていく。利用者ご本人の積み重ね、実績としての記録であります。そして定期的に利用者ご本人の記載した内容を見ながら一緒に振り返ることになります。ミスが発生しやすい傾向やミスが発生した時の対応を一定の時間が経過した段階での振り返ることによって定着できる部分もあると思いますし、改善され今時点ではスムーズにできるようになっていることをスタッフと確認することで、自信につながることも多いように思います。



▲個別・OA 作業スペース (TEACCH に基づいた場所づくり)

### ○利用者の中には達成感を持っている人もいるということですが、MWS のことについて利用者の感想等聞いていることがあれば教えてください。

**大石所長**：うちから卒業していった利用者が「ようこそ先輩」みたいな感じで、働き出した人が来ますが、大体みんな「MWS をやってよかった。」と言います。それは実務系の作業についている人も事務系の作業についている人も同様です。

### ○障害者職業センターとの連携はいかがでしょうか。

**大石所長**：職業評価を依頼したり、ジョブコーチ支援で連携することはよくあります。また、MWS のことという導入時に2回くらい勉強会をひらいてもらったり、MWS を導入している他の施設も集まって、意見交換をしたりすることもあります。

スタッフは就業支援基礎研修を受講したり、私自身は実践研修を受講しています。発達障害の人のためのアセスメントについての研修を受け、MSFAS（幕張ストレス・疲労アセスメントシート）の使いなどを学んだのですが、これをナビゲーションブック作成のための面談などに活用し、よりの確なものを作成できるようになったものと感じています。

嶋村さん：実習先でちょっと注意された時に、怒られたと感じ、自棄な行動を起こしてしまう利用者がいましたが、このシートを使いながら整理し、よい振り返りができたことがあります。

○他に研究成果物等で使っていただいているものはありますか。

大石所長：障害者職業総合センター職業センターで開発した「問題解決技能トレーニング」の手法を嶋村が担当する就活講座に、「リラクゼーション技能トレーニング」の手法を自分が担当する「ストレスマネジメント」で活用しています。スタッフが助言するよりも利用者同士で考えるというところは、すごくいいアイデアが出てきているような気がします。

○アステップむろまちでは、リーフレットでも MWS の活用に触れてくださっていて、かつ、京都府内の就労移行支援事業所の中でも 2 番目の就職実績を出しているとのこと。研究成果を活用していただき、かつ効果があったことを知ることできて、現場での有効活用についてどうアピールするのがよいのか、今後の参考になりました。ありがとうございました。

